



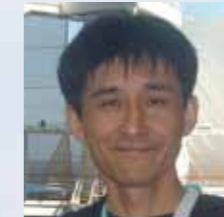
昨年、日本発着の低価格のカジュアル・クルーズが登場し
 新たなクルーズ需要が喚起されている中
 本年は、外国クルーズ船の日本進出が史上最多となる見込みです。
 一方で、全国各地域ではクルーズ船寄港を誘致することで
 地域振興を図ろうとする取り組みがなされています。

今号では「クルーズで再生する日本」をテーマに、クルーズ企業の動向や受け皿でもある
 地域の取り組みなど、クルーズを取り巻く最新の状況をご紹介します
 わが国の今後のクルーズ市場の展望や可能性を探ります。

クルーズによるわが国の活性化

大阪大学大学院 教授

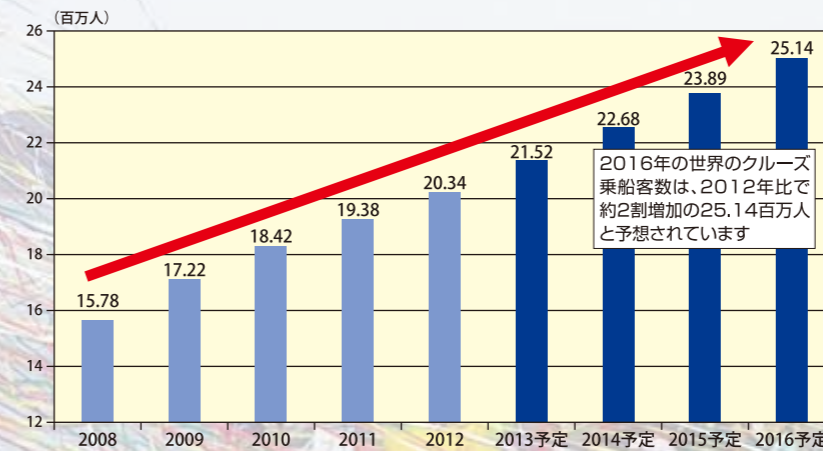
赤井 伸郎



今、クルーズに注目する意味

世界経済は、リーマンショックや、ユーロ危機など、数多くの経済危機・ショックのたびに、景気が乱高下している。特に、観光に関わる業種は、その景気の影響を受けやすい。そのような状況の中で、クルーズ観光への需要は、着実に拡大してきている。

毎年三月に、マイアミでは、クルーズ業界の関係者が集まり、大規模なコンベンションが開かれている。世界のクルーズ会社のTOPによる会談では、「クルーズビジネスは、景気にも強く、その魅力はまだ浸透していない。まだまだ伸びる分野である」との強気の発言が多く見られた。



世界のクルーズ乗船客数の推移(現状と予測)
 出典: 2012年まではCruse Market Watch, 2013年以降はConcept Analyticsのデータを基に作成

裏づけるデータも提示され、世界では、今後、ますますクルーズが注目されていくと期待される。
 日本では、二〇一四年四月から九月まで、外国クルーズ客船による本格的な日本発着クルーズが行われる。乗客定員二〇二名のサン・プリンセス(七万七〇〇〇トン)と、乗客定員二六七〇名のダイヤモンド・プリンセス(二万六〇〇〇トン)が、横浜、神戸、小樽を起点として、七、十日毎に発着する。横浜からは、瀬戸内海から九州、台湾、日本一周、北海道一周などのコースが、神戸からは、沖縄、九州を回るコースが、さらに、小樽からは、北海道を一周するコースが組まれている。
 このコースと船体規模から見ても、数多くの乗客が、日本各地を訪問し、船上からも、瀬戸内海や北海道(知床)の風景など、日本の魅力を再発見することは確実である。この再発見には、単に、乗客が楽しむと言っただけではない、実は、もう一つの隠された意義があるのである。

クルーズによるわが国の活性化

社会の成熟化、産業空洞化、少子高齢化など、日本地域が直面する課題は多い。これを克服しようと、政府は、バブル崩壊以後、数多くの地域活性化策を講じてきたものの、十分な効果は得られていない。今、日本地域を活性化するために、何ができるのだろうか。その方法は、地域に潜む魅力を活かせるものでなければならない。
 この視点で地域を見つめ直した場合、クルーズ客船が日本各地を訪問することは、地域の魅力の再発見を通じて地域活性化に寄与するという点に気づくであろう。

はいかない。

さらに、地域においても、クルーズ客船寄港の動きは、変化を生み出す。日ごろ、観光客が来ない地域では、街に観光客があふれることによって、その地域住民に、「わが地域も未来があるのではないか」という希望を与えるであろう。精神的な側面は、地域再生には最も重要である。

今後、

地域が取り組むべき課題

前記で述べたクルーズによる地域活性化のポテンシャルを十分に発揮させるため、地域は次の取り組みを行うべきである。

第一は、「投資としての地域での魅力発信と寄港誘致の取り組み」である。地域活性化の効果が現れてくるまでには、時間がかかる。投資としての覚悟を持ち、地域での魅力発信によりクルーズ客の目に留まること、そのファーストステップとしての客船誘致活動である。初めての寄港を実現するまでの道のりは険しいが、魅力がある限り、実現は可能であろう。

第二は、投資活動の説明責任として、「地域でのクルーズ寄港による活性化効果の科学的検証への取り組み」である。寄港によって、その地域がどのように変わったのか、客観的なデータで検証することが大事である。継続的な調査によるデータの積み重ねが説得力を生み出すのである。これら取り組みによって、地域活性化が実現する日が近くなると思われる。

クルーズ船寄港による大量の観光客の流入は、様々な効果をもたらす。第一に、発着港となれば、乗降の前後での宿泊、食事の需要が生まれる。一航海で必要な船内物資の積み込みも、その港で行われる。物資の調達から、その港までの物流需要が生まれる。第二に、寄港のみの港においても、効果が見られる。寄港のみの港は、経済規模が相対的に小さい。その港に、数千人規模の観光客が、それも定期的に押し寄せると、何が起きるであろうか。
 まずは、観光需要として、交通機関、土産物や食事などの消費の拡大があるであろう。この経済効果の推計はすでに行われているが、それほど大きいものではない。一人が一万円生み出したとしても、二〇〇万円である。十回寄港しても、二億円である。他の効果は無いのである。うか。実はまだまだ隠された効果が想定される。

それは、将来に向けた投資としての見

方である。大手の船会社のクルーズ客船は、数多くの客船を全世界で運航している。常に、クルーズ客のニーズを把握し、そのニーズを満たす寄港地を探している。特に、リピーターの客に対しては、新たな発見のできる寄港地を提供しなければならない。

この視点から見ると、日本は、未開拓な

分だけ、魅力の宝庫とも言える。クルーズ

客船が寄港すると、その情報は、全世界に

発信される。全世界のクルーズ客が、その

情報にアクセスする。「日本に、このよう

な魅力が秘めた地域があったのだ」と

そこから需要が生まれる。その需要がさ

らなる船の寄港をもっと幅広い観光につ

ながるのである。すなわち、全世界に、地

域の魅力を発信するためのきっかけとなる

のである。このチャンス逃すわけに